

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

みたけ

日付 平成 21年 1月 28日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

[自主評価結果を見る](#)

[評価項目の内容を見る](#)

[事業者のコメントを見る\(改善状況のコメントがあります!\)](#)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成20年3月に1年余り経過したこのホームを訪問した時は、代表者と管理者は独力で設立したグループホームの運営と認知症ケアの仕方へ一生懸命、一つひとつ皆で体験を重要な試金石として受け止め、ケアとサービスの質の向上に努力していた。一方利用者は全員女性で、利用者同士でも職員とのコミュニケーションが活発で賑やかにリビングルームで皆で過ごしていたと記憶している。

このホームでは、利用者の事を“お客様”と呼ぶ。ホテルや百貨店のお客様とは意味が違うが、人格を尊重し、一人ひとりの個性を發揮して貰いたいと考えている。つまり一人の人間としてホームで生活して貰いますよ、という意味だろうと解釈した。

今回訪問した平成20年12月、開設から1年10ヶ月経過したこのホームは大きく成長していた。代表は「ホームの運営が落ち着き、新しい事が出来るようになった。認知症の事も解ってきたので、ケアの仕方に成果が出て来て、お客様も落ち着いてきた」と自分の気持ちを打ち明けてくれた。管理者は「理念の目指す所をミーティングで職員に伝え、共通の認識を持って貰えるようになった。最近は月間目標を定めている。職員ミーティングで全員から目標を発表して貰い、協議してその月の目標を決め、実行するようにしている。特に利用者の生活の重点項目として、散歩 水分補給 日光浴をするようにしている。そこから利用者との会話が出来るようになってきた。夜はよく眠れるようになったそうだ。この立地状況は、小高い丘の上であり、周りは田畑が広がっており、天気の良い日は、燦々と太陽の恵みを受ける事が出来る。散歩道も田畑の中の道をゆっくりと安心して歩いて行ける。車椅子の人も利用者が押して出掛けている。ホームの中でも、ウッドデッキに出ても良い、リビングルームにも窓越しに太陽が入り、日溜まりの中で風船ボールを投げ合ったり、歌を歌う事も出来る。この目標は、このホームの利用者にとっては、自然の恵みの中で活動する事が出来る。

食べる事も大切にしている。旬の魚や野菜をたっぷり使って季節感を味わって貰って、皆で楽しく食べる事もこのホームの特徴である。

このホームの認知症ケアについて基本的に考えている事は『利用者の行動や言動を職員は自分に置き換えてみて、何を考えているか、何が原因かをよく考えてみる。認知症の人はすぐに理解出来ない。無理矢理利用者のでしている事を抑え込むのではなく、ゆっくりと話してあげる。粘り強く、間をおいて話を聞いてあげるように』で、職員に何時も言っているそうだ。認知症に対する理解をしっかりとおり、ケアの真髄に当たる事であり、良いホームに成長すると期待したい。

特に改善の余地があると思われる点

代表や管理者は、上記のように認知症ケアについては最先端の考えのもと、ホームのケアとサービス向上に努力している。介護計画や関連の記録類が、利用者のケアに直結し、職員の業務改善にも役立つようなシステムを考えて貰いたい。私共も協力していきたいと思う。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：運営理念に関して改善事項はない。理念を具体的にケアやサービスに結び付けるように、職員と一緒に管理者が目標を定めて実行している。その目標は重点的なケアとして「散歩」「水分補給」「日光浴」を挙げており、それを実行する事により、夜はよく眠れ、食欲も旺盛になって、元気を取り戻している利用者の人間回復にも繋がっている。</p> <p>2、全体的に見て…：開設した当初に作った理念は「その人らしく生きる事を支援」「人格を尊重し、ご家族を尊重」「可能な限り、自立と自律への援助」「プライバシーを守る」「平等の最善の介護」「最後まで共に歩む」とある。認知症について理解を深める。認知症になってしまった人の人生をしっかりと送って貰う為のケアについても極めてみたいとの思いでホームを運営していく志は尊い。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：1ユニットのホームとしては大変ゆったりとした設計で作られ、雰囲気も和風造りと現代風を上手くマッチさせた建物である。利用者にとってもそれぞれの感性をくすぐるような住居である。広がりピンルームや共用空間を利用者にとってどのように活用するかが課題であったが、ウッドデッキも机や椅子を出して、ティタイムに使用していると聞いた。又、食堂部分の隣にある部屋も、陽だまりとして利用者が日向ぼっこをする場として活用し、そこで利用者の遊び場としても活用している。</p> <p>2、全体的に見て…：この土地は代表者の住んでいる馴染みの地域なので、この地域の中でグループホームとしての活動も期待出来る。現在は先ず、ホーム内の充実が先決なので、地域の認知症ケアとしての拠点は将来の課題としておこう。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：認知症の利用者がこのホームでその人らしく生活していけるよう、ケアやサービスについて、一つひとつの要因を少しずつ改良して、理想としているグループホームを現実のものに育てるよう、代表者・管理者及び全職員で頑張っている。設立して2年足らずで、その目的も飛躍的に達成出来つつある。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者はまだ元気に楽しく過ごせる人も多い。風船バレーをしたり、カルタ遊びで読み手も取り手も出来る。食事の調理の手伝いも出来る。片付けたり、掃除したりも出来る。一人ひとりはっきり役割を持って動く事も出来る。お話も1対1でも出来るし、集団でのお喋りも出来る。これらをもう少し活気付けたり、皆で楽しめるようにするには、楽しみ、嬉しさを感じて貰えるきっかけ作りが大切かと思う。コミュニケーションのきっかけも必要と思う。これから実のあるケアをしていけるよう、もう一歩踏み込んで貰いたい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：現時点で家族や地域との関わり合いについては、一つひとつ着実に改良を加えていき、地域や家族に喜んで貰えるホームになっていくであろう。</p> <p>2、全体的に見て…：代表者は自分の信念をしっかりと持っており、管理者と職員と共に利用者の生活、認知症になってもその人なりに一人の人間として人生を送って貰いたいと支援していくよう考えている。その考えには賛同出来るし、職員も安定している。子息である管理者は、昨年の訪問からするとスケールも一回りも二回りも大きくなったと感じる。ホームを充実していく屋台骨として成長していこうと期待しておきたい。これらの人材が、これからの問題点を見出し、解決すべき課題を設定して、ホームの改善に生かして貰えると思う。</p>		